

# 日本母性看護学会ニュースレター

The Japan Academy of Maternity Nursing Newsletter No.11

発行 日本母性看護学会 事務局：〒228-0829 神奈川県相模原市北里2-1-1 北里大学看護学部内 Tel.042-778-9826 Fax.042-778-9826

## 日本母性看護学会への期待

遠藤 俊子（日本看護系学会協議会役員・日本看護協会助産師職能理事）

平成22年の幕開けは、政権交代後のわが国の国家予算からのスタートでした。国民目線の、政治の透明化をうたっている新たな政権が、どれだけ女性・母子・家族の健やかな一生を支えるケアを支えることに力を注ぐか、大きな関心があります。残念ながら、まだいづれの政権を支持するかというようなことで、看護団体に思うように意思決定の場の諸会議委員への席や予算が確保し難い状況が続いているような感覚をもっております。しかしながら、「子ども手当」に代表されるように、子どもや女性が大切にさせる社会を志向しているのは確かです。

大学の教育改革に加え、日本学術会議看護学分科会を中心とした高度実践看護職のあり方や評価を巡って議論が進んでいます。

本学会も発足10年を経て、学会のあり方が期待されていると思われます。HPにおける高橋理事長のご挨拶「日本母性看護学会が、母性看護学の基礎研究を深め、エビデンスに基づく実践研究を積み重ね、女性・母子・家族

の生涯の健康を支援していくには、ますますの絶えざる努力が必要であり、理事長としての学会の責任の重さを痛感しております。」に表明されているとおりであり、学会員全体の責務かと思えます。これからは、学術集会に加えた諸活動が期待されます。例えば、平成22年度から開始した新人看護職員研修の助産師の研修への関与や、看護の裁量権拡大にすぐにでも取り組める助産業務の方向性、助産師のキャリア発達に関わる教育や標準化、母性看護の臨床におけるスキルミックスなど、多くの課題に、具体的に一步一步取り組む学会として機能したいと思えます。



# 第11回 日本母性看護学会 学術集会報告

第11回学術集会長 森 恵美  
(千葉大学大学院看護学研究科教授 日本母性看護学会副理事長)



## 『子産み子育て文化の再生と母性看護』

日 時	平成21年6月20日		
会 長	森 恵美 (千葉大学大学院看護学研究科)		
場 所	千葉大学 けやき会館、人文社会科学系総合研究棟		
参加者人数	187名	事前参加登録者…	会員70名、非会員33名
		学会当日参加者…	会員43名、非会員30名、学生11名
懇親会参加者人数	43名	事前申込：32名	当日申込：11名
発表演題数	口演19題	示説1題	交流集会3題
会 長 講 演	日本文化を尊重した育成期家族の看護実践		森 恵美
理事長講演	ジェンダーに基づく女性の障害への健康支援 —NEW PERSPECTIVE—		高橋 真理
特 別 講 演	日本人の子産み・子育て—いま・おかし		宮里 和子
シンポジウム	現代の育成期家族をめぐる漢語実践の先駆的試み 母と子の絆：母子関係は変容してゆくのか 河合 優年 (武庫川女子大学文学部/教育研究所・こども発達科学研究センター) 地域における子育ての実態から子育て家族に対する支援を考える 佐藤 紀子 (千葉大学大学院看護学研究科) 子どもの虐待予防を目指した妊娠期からの子育て支援 —母性看護学の視点に基づく看護援助が指すもの— 大平 光子 (山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科) 資生堂における、仕事と育児・家庭との両立支援について 片岡 まり (株式会社資生堂総務部CSR室)		

第11回日本母性看護学会学術集会のテーマは、文化の多様性を尊重する社会の実現が目指され、日本では子産み子育てが社会文化の中で伝承性が薄れ、看護によって解決すべき新たな健康問題や社会問題が発生してきていることから考えました。

特別講演では、妊娠・出産・育児に関して、現在でも継承されている慣習が紹介され、その実態や、それらに影響を与えたと思われる要因についてお話があり、昔からの常民の間に伝わってきた子産み・子育ての慣習に籠められた、命の発生・継承・認知・誕生への「こころ」と「知恵」について学ぶことができました。

シンポジウムでは、「育成期家族をめぐる漢語実践の先駆的試み」というテーマで、4名の立場の異なるシンポジストの先生方から、現代社会の文化、環境が母子関係の形成に与えている影響や子育てにおいて生じている課題についてお話頂き、現代の育成期家族への文化・環境を尊重した子育て支援について検討することができました。

また、一般講演や示説、交流集会を通して、母性看護学の立場から、新たな子産み子育て支援活動の展望が見出されました。

## 第3回 日本母性看護学会学術論文賞決まる!!

第3回の日本母性看護学会学術論文賞の授賞式が、去る2009年6月20日第11回日本母性看護学会学術集会総会の会場で行われました。栄えある第3の学術論文賞を受賞した論文は、原著「出産後1ヶ月までのAMIS修正版の信頼性・妥当性に関する検討」日本母性看護学会誌Vol.8(1)に掲載された論文です。著者は香取洋子氏（北里大学看護学部）です。著者の香取洋子氏へ賞状および副賞が授与されました。

第3回は日本母性看護学会誌Vol.8(1),

2008.およびVol.9(1),2009の原著および研究報告、総説13編中既に昨年授賞済論文を除いた12編を対象論文とし、厳正な審査の結果、選出されました。今年を受賞論文もレベルが高く、尺度開発に関する論文でした。第4回の日本母性看護学会学術論文賞は、日本母性看護学会誌Vol.9(1)およびVol.10(1),2009年3月発刊の論文の中から、審査を経て決定する予定です。

【文責 総務担当理事 吉沢】

## 第12回 日本母性看護学会学術集会開催のご挨拶

第12回日本母性看護学会学術集会会長 村本 淳子

日本母性看護学会は、母性看護学の進歩発展を図り、母子の健康と福祉に貢献することを目的に1999年に設立されました。そして栄えある第1回学術集会を初代理事長の前原澄子学術集会会長のもと、三重の地で開催させていただきましたことをつい先日のように思い出されます。今回、第12回学術集会をまた三重の地で、平成22年6月19日(土)に開催できますこと、企画委員一同大変うれしく思っております。

母性看護学独自の研究成果を蓄積し、体系的に発展させていくため、第1回の学術集会は「母性」を問うことから始めました。21世紀の少子高齢社会のなかで、新たな健康問題や社会問題に晒されている人々が、「つながり

の輪と絆」を深め「生命を迎え育む」ためにも母性看護学のさらなる発展が期待されているところです。

最近のわが国の周産期医療を概観すると、妊産婦およびその家族は、より安全で、より高いアメニティ、より主体的な意思決定を尊重した援助を確実に求める状況になっています。ところが、周産期医療の現場では、産婦人科医師とお産を取り扱う病院・診療所の減少は止まらず、出産する場所を求めてさまよう「出産難民」も増え続けるという深刻な事態に直面しています。

そこで、本学術集会は、『今、改めて周産期ケアを問う』をメインテーマに、妊産褥婦・新生児とその家族に良質な周産期ケアを提供

するために、母性看護の専門家として歩むべき方向性を見出していきたいと思います。今だからこそ、改めて周産期ケアを問い、女性とその家族の意思決定を支え、より個別的で適切なケアを提供することが重要と考えます。そのために本学術集会で母性看護の専門家が医師や他のコメディカルとの真の協働・協力

関係を築いていく上での課題を明らかにしていく機会になればと考えております。ぜひ三重の地で皆様とともに積極的な議論が出来ますことを期待しております。

#### 学術集会開催案内

<http://www.mcn.ac.jp/bosei/newpage9.htm>

## 【研究助成に関するご案内】

研究をするには、さまざまな資金が必要です。また、資金を獲得することによって、研究内容を充実させることができます。そこで、母性看護学領域の研究を会員の皆様に活発に行って頂くために、助成金制度の開始とともに、他団体が行っている研究助成のリスト作成を行いましたので、ご案内申し上げます。

### 1. 平成22年度研究助成募集について

本学会では、母性看護学の発展に寄与する学術研究活動を促進するため、若手研究者や臨床で働く研究者の研究支援を行うことを目的として、研究に対する一定額の助成金を支援することになりました。平成22年度の募集が下記の要領で行われますので、奮ってご応募頂きますようお願い致します。

#### 1) 研究助成金の助成額

研究1題について、30万円を限度とする。

#### 2) 応募資格

- ① 申請者（研究代表者）は、本学会員であり、会員歴が3年以上であること。
- ② 共同研究の場合は、共同研究者もすべて本学会員であること。

#### 3) 研究期間

平成22年4月から平成23年3月末日まで

#### 4) 募集期間

平成22年1月から平成22年3月10日まで

\*詳細は、本学会HPに掲載しております「平成22年度研究助成に関する公募要項」をご確認下さい。

### 2. 研究助成のリストの掲載について

会員の皆様が応募可能な研究助成の一覧を、HPに掲載しております。

[http://www.mcn.ac.jp/bosei/joseikin\\_program.pdf](http://www.mcn.ac.jp/bosei/joseikin_program.pdf)

年2回更新する予定です。一覧は、申請対象研究、助成額、申請期限を記載していますが、研究助成を行っている団体のURLも記載し、直接HPにアクセスできるようにしています。是非、研究資金の獲得にお役立て下さい。

【研究促進担当：工藤・石井・佐々木】

## 第5回 日本母性看護学会セミナー共同開催 CTG(cardio toco gram)セミナー

### ～プラクティカルCTG判読スペシャリスト 1st認定コース～を開催して

2008年に日本産婦人科学会周産期委員会より「胎児心拍数波形（CTG）の判読に基づく分娩時胎児管理の指針」が発表され、2009年4月にはその基準の改定が行われました。CTGの判読については何よりも周産期医療の現場における看護職の役割として重要とされていることから、CTGの標準化した判読と臨床的対応についての知識を習得するための「CTGセミナー」を本学会で開催・運営することとなりました。日本産婦人科学会周産期委員会のメンバーでもある池田智明先生のご協力もあり、5月から企画し、8月1・2日の2日間のセミナー開催となりました。開催するなら、やりっぱなしではなく、きちんと継続的にフォローができるように、また受講生の皆様にも、「受講した」だけで終わるのではなく、常に最新の知識を取り入れながら、切磋琢磨してほしいということもあり、期限付きの学会認定の資格として設けることにしました。ばたばたとする中で、会員の皆様と、今年は東日本の産科を標榜する病院を中心に6月より募集を開始をしたところ、定員50名が、1週間で埋まってしまいました。これには臨床現場からのCTGに対する興味の高さ

に驚かされました。最終的には100名を超える応募があり、定員を70名に増やし実施しました。2日間にわたり、基礎的な知識から実際の波形を用いての判読の演習までを行い、最後には波形の判読と臨床的対応についての試験を行いました。このセミナーにおける資格の質を保證するために合格ラインを設け、今年度の合格率は85.5%でした。2日間という短い間の講義・演習であったため、十分に学習できなかった方々もいらっしゃると思いますが、ぜひ、来年度また受講していただき、挑戦していただきたいと思います。また、このコースは2ndコース（インストラクター養成コース）も企画していく予定ですので、企画・運営にご興味のある方はぜひ、日本母性看護学会事務局までご連絡ください。

【学術・教育支援幹事：中村 康香】



# 第14回看護系大学助産師教育研究会について

平成21年7月18日東北大学大学院医学系研究科星陵キャンパスにおいて第14回看護系大学助産師教育研究会（代表：成田伸 自治医科大学看護学部教授）を開催しました。「看護系大学助産における技術の質の保証に向けてのOSCE開発」を目標に、本学会の会員の先生方を中心に56名の参加をいただきました。助産師養成の中心が大学基礎教育にシフトしている現在、技術教育の内容と質をどのように担保していくかということが大きな課題となっています。打開策の一つとしてOSCEの導入・普及が今後期待されています。会合は2部構成で、午前は学士課程における助産師教育の現状と課題と助産教育におけるOSCE導入に向けての現状についての研究成果に関する発表を聞き現状問題の共有を図りました。

午後からはOSCE導入を見据えての教材開発の必要性とその課題についてのグループワークを実施しました。ここでは現在国内外で使用されている分娩介助モデルを実際に動かしてみながら、そのモデルで展開できるであろう内容とともにモデル自体のクリティークを行い、今後の助産師教育で求められるモデルは何かということについて討論しました。用意された教材は、全身シミュレーター、分

娩介助モデル（国内産、国外産）、内診モデル（国内産、国外産）の6つでした。特に国外の分娩介助モデルと内診モデルはICMなどで体験された方々もいらっしゃいましたが、その素材の質感のリアルさと娩出のリアルさにほとんどの参加者の皆さんが感嘆の声を上げていました。個々のグループワークでも、年齢・経験を超えた熱心なクリティークが展開されるだけでなく、初めて体験する教材に驚きと発見を得て、会場は熱気と興奮に大きくわいていました。

しかし、素晴らしいモデルでもやはり短所もあり、これらを改善しながらどのように教育に反映させより質の高い技術演習ができるかを今後産学協働で検討していくことの必要性が最終的な提言としてまとめられました。

助産師教育を含め看護界全体の教育システムが転換期を迎えようとしている現在、これらの活動や提言をどのように展開していくか、私たちにも大きな課題として提示された会合となりました。

ご参加いただいた会員の皆様、ご協力本当にありがとうございました。

第14回看護系大学助産師教育研究会事務局

跡上 富美（東北大学）

# 事務局からのお知らせ

## 1. 第11回日本母性看護学会

### 学術集会について

平成21年6月20日(土) 森 恵美会長（千葉大学大学院看護学研究科）のもと、第11回日本母性看護学会学術集会が開催されました。メインテーマ「子産み子育て文化の再生と母性看護」を掲げ、特別講演は日本の子産み子育てに関する歴史的研究をされてきた宮里和子先生、シンポジウムでは「育成期家族をめぐる看護実践の先駆的試み」をテーマに様々な立場の異なるシンポジストを迎えて報告や提案がなされました。一般演題は口演、示説のほかに交流集会が設けられ、活発な意見交換がおこなわれました。第12回学術集会は三重県津市にて村本淳子学術集会長（三重県立看護大学）のもと開催予定です。

## 2. 平成21-22年度新役員について

平成21年5月末に新役員選挙が行われ、理事・監事が新たに決定しました。

分掌	担 当 理 事	
理 事 長	高橋 眞理	
副理事長	森 恵美	
庶 務	島袋 香子	
会 計	鈴木 幸子	
編 集	河野 洋子 森 恵美	石井 邦子
広 報	大平 光子	村本 淳子
研究促進	工藤 美子 佐々木綾子	石井 トク
学 術・ 教育支援	吉沢豊予子 山本あい子	町浦美智子 佐山 光子
戦 略 的 プロジェクト	成田 伸 小松美穂子 齋藤いずみ	遠藤 俊子 桑名佳代子
監 事	前原 澄子	末原紀美代

### 3. 平成21年度会費の支払いについて

当学会は、皆様の会費で運営されております。H21年度会費未納の方は、郵便振込み(青色の払込取扱票)による会費の納入(¥8,000)をお願いいたします。

口座番号：00890-3 128235

加入者名：日本母性看護学会

振込用紙をご使用の方は、通信欄に平成21年度年会費と記載をお願いいたします。

なお、入金状況がご不明な方は、学会HPの〈会員・入会手続き・年会費〉ページより会員管理システムへのログインをクリックし、会員IDとパスワードを入力しご確認下さい。また、昨年より、会員管理システムを利用したクレジット払いも可能です。クレジット支払いをご希望の方は、会員管理システムにアクセスを行い、年会費支払い方法をご変更ください。変更後にクレジット番号等必要事項をご入力いただくことで支払いが完了します。後日、クレジット会社から請求が行きますが、請求者は学会名ではなく「学会屋.com(コム)」となっておりますのでご注意ください。なお、2月から3月までは会計運営上クレジット支払ができませんのでご了承下さい。

### 編集後記

第11号ニュースレターは年明け早々にお届けする予定が、立春を迎えてしまいました。今回も発刊が遅れましたことをお詫びいたします。

第11号では研究助成金案内の記事も掲載しております。本会ホームページと併せてご活用ください。年1回発行のニュースレターですが、今後とも内容の充実を図っていきたいと思います。皆様のご意見、記事をお寄せくださるようお願い申し上げます。

(大平)

発行人：高橋真理

発行日：2010年2月20日

編集担当：大平光子

発行所：日本母性看護学会

〒228-0829

神奈川県相模原市北里2-1-1

北里大学看護学部内

Tel/Fax：042-778-9826

Eメール：jsmn@nrs.kitasato-u.ac.jp

